

トリ目・ウオの目・おか目はち目[®]

「多治家礼とはダレジャ」



福岡女学院大学客員教授

斎藤裕三

☆☆

「ハッピー・ニュー・イヤー！」
ハッピー？ 何がですか。おめでたいのはあただけですばい。去年から世の中ひっくり返つとるでしょうが。
テロに炭そ菌に狂牛病、それに「アビ

スパ」のJ2降格。何ぼしようかね。未成年の女の子ば寮に引き入れたりして！未成年の女の子じゃなく、成年のよか選手ば引き入れんしやい。
「やだねつたらやだね」
博多出身の歌手氷川きよしさんも、歌いようでしょうが。
「モウ・イヤー」
出た！「初日の出」ならぬ溜め息混じりの二〇〇二年版「初駄じゃれ」。
けど、今年は午年。文化勲章とはいわんばつてん、せめて桜花賞か皐月賞並みの、もつとウマか駄じゃればシカと作りんしやい。しようもなか駄作ばっかり。
すみません、脳力不足で。でも、冷酷な世間の駄じゃれ批判や軽蔑的笑いには、今年も「馬耳東風」で、イアン・ソープのように、スーイと逃げ切ります。
まあ、ともかくは、
「明けましておめでとうございます」
さて皆様。今年もまた、恥や外聞が売りの「トリ目・ウオの目・おか目はち目」を、書き続ける所存にございます。
読者の皆様には、忍びがたきを忍び、耐えがたきを耐え、なにとぞ一層のご愛顧とご最良のほどお願い申しあげる次第でございます。勝手にしろ。あら、そうですか。では勝手にさせて頂きます。
というわけで、二〇〇二年の新年号は

朱鷺かまど
てら岡本店三階
☎(731)6030

駄じゃれでいくことに決めました。
前に、英文学者、演劇評論家として高名で、さらにシェイクスピア並みの駄じゃれの達人、東大名誉教授の小田島雄志先生を紹介しました。
今回は、「ダジャレを楽しんでくダジャレ」をモットーに、「全国民必携・前代未聞のダジャレ教科書！『ダジャレ練習帳』」角川春樹事務所を刊行した多治家礼氏と、「こころを開きこころを結ぶ ユーモアの世界へようこそ！」と銘打って、『ユーモア革命』(文春新書)を書かれた、阿刀田高氏の駄じゃれ論です。
一見してわかるように、多治家礼氏の本は実戦用のマニュアル風、阿刀田高氏のは、背後にある理論解説風で、ユーモア全体に及んでいます。
多治家礼とはいいたいダレジャ？ 自己紹介では、二〇世紀生まれの『教授』で、子供の頃からのダジャレ好き。長じて東大や諸外国でダジャレの研究に励み、研究室を設けてからは、日本で21世紀のダジャレを思索する日々」とあります。
皆様、このファウストばりのもつともらしい自己紹介、どこか胡散臭いと思いませんか？ 筆者みたいにドンカン人でも、「多治家礼(ローマ字で"ajikare")は、「だじゃれ」そのものだ」と気がつきます。ペンネームというのは確かに厳然とあ

贈ります。博多の心。一

博多人形
博多織

増屋

博多上川端商店街☎(281)0083番
天神地下街店☎(771)1070番

博多石焼
大坂屋
創業大正15年
郷土料理
Japanese Restaurant
福岡市博多区中洲5丁目3-16 ☎(291)6331
営業時間 午前11時半～午後10時

りますが、このように読者を小バカにしたような姑息なペンネームの使い方や、尊大な自己紹介の表現法は、筆者の駄じやれ倫理コード(基準)には合いません。

筆者の基準では、自ら楽しむのはもちろんですが、同次元で聞き手にも一緒に楽しんでもらうことが大切です。つまり、駄じやれは、公明(正大)で自由民主的精神に富み、あつけらかんの内容公開が原則です。若干保守も含まれますが。

多治家礼氏は、東大卒で大学教授かも知れません。だが、どこかいかかわしいですね。どうでもいいことですが、人をおちよくるのはいいかげんにしてください。駄じやれの世界とは別物です。

お屠蘇気分を壊すような、生意気いって申し訳ありません。愛する駄じやれのために、ついムキになってしまいました。一方、阿刀田高氏は、早大文学部卒。短編集『ナポレオン狂』で直木賞、『新トロイア物語』で吉川英治文学賞を受賞。氏の作品中には、品のいいユーモアが、あちこちにちりばめられています。

阿刀田氏によれば、ユーモアとは、「もう少し別な見方で、優しく、ゆつたりと生きることを考えてみましょう」という提言であり、普通の生き方では壁にあた

んなさいよ」と言ってくれるものだ、と説明しています。

まじめに物事を考える時には、深く掘り下げる垂直思考が大切ですが、もう一つの方法として、部分的に水平方向に思考を広げること大いに有効なのです。

そして、阿刀田氏は、ユーモアにはセレンディピティの効果がある、と説きます。セレンディピティとは、わかりやすいくうと、偶然から予想外の大発見が生まれることで、ユーモアは軽いのが身上ですが、知性を働かせながら、同時に別な視点から見ていると、偶然すばらしいものを見出す、ということです。

上質の駄じやれ?にもやはりセレンディピティがある、と筆者は思います。江戸前期、マンネリズム化した貞門に対し、軽妙洒脱、斬新奇抜な作風を興した西山宗因一派の談林派の俳諧にもこれに通じるものがあるように思えます。

例えば、有名な井原西鶴の句
大晦日さだめなき世の定め哉
も、「さだめなき世というけど、大晦日という日が決まっているじゃありませんか」と発想の転換を促しています。

では、ここで多治家礼氏の『ダジャレ練習帳』から面白い駄じやれを紹介。
「ダジャレ・ヌーボー」
(飲んだら悪酔い疑いなし・筆者)
「二次会終わったらもう二時かい」

「もう愛がないのであなたとはアイマせん」

「あの講師公私混同だ」

(耳が痛いなあ・筆者)

「おいマネージャー、なんのマネージャー?」

あそうだ。次に阿刀田先生の『ユーモア革命』からも忘れてはいけません。

「転勤先は幸か不幸か福岡です」

(福岡か志免志免・筆者)

「原稿は遅くとも健康が一番」

(寺田本誌主宰よく聞いて!)

「病み上手の死に下手」

「教養があるねえ、いつから?」今日よ」

最後を飾るのは筆者のめいわくな迷作。

「公園のイヌの糞にフンガイ」

「イチロー大活躍! ボクだって一浪だ」

「空中接触事件解決へ、米中地上で接触」

「今こそガンバリアンダンスを」

「クローンヒツジはメー」

皆様、ここで、日本中が待ちに待ったビッグニュース!

昨年十二月一日午後二時四三分、皇太子妃雅子様が敬宮愛子内親王様をこ出産。

やつと真正正銘の「おめでとう」です。

内親王様が、平和の象徴として、健やかに成長されることを心から祈ります。

九

朱鷺かまど
てら岡本店三階
TEL (731) 6030
「気を取り直してごら

☆☆



博多 博多人形の
はくせん

はくせんギャラリー 福岡市中央区平尾1-3-34
TEL (092) 731-8900

マイキング店 福岡市博多区博多ステーションビル名店街
TEL (092) 451-8900 番

どんな遠い所にも
完全な荷造りで
責任をもってお送りいたします